

# 軍国少年だったわたし

岸和田市下松町

濱上 和美

わたしは国民学校1年生に入学、国民学校6年生を卒業、6年生の時終戦を迎えました。

わたしが生まれたのが和歌山由良。戦時中も呉海軍の由良分隊が駐屯し、海軍の兵隊さんが駐屯していましたし、軍艦が停泊していました。その為由良町の山々には高射砲が設置され、実家の50m先にも高射砲が設置されていました。

小学校時代を国民学校生として軍国少年の教育を受けさせられたわたくしは、米英鬼畜思想はもちろんのこと、天皇陛下に命をささげることが最高の生き方と考え、国民学校卒業後4年経てば予科練に入ることを夢見ていました。単身飛行機に乗って敵陣を自爆することが、最高の名誉と教育されていました。人間魚雷や爆弾三勇士の話を知りながら聞いたものでした。運動場には戦闘機に乗ったときメーライしない為の遊具や、音楽の時間には軍歌や兵隊さんを励ます歌など、戦気高揚の歌ばかりでした。

大本営発表の放送は日本軍の戦果ばかりの放送で、終戦近くになつてB29戦闘機が、和歌山由良の上空を通過し、大阪方面に爆撃するようになつても大本営発表は決して負けそうな放送はしませんでした。毎日午前9時ごろになるとB29が定期的に飛来しその高度も

「とも」9月号に掲載した戦争体験手記募集を見て、お寄せいただいた手記を順次掲載していきます。

## 私の戦争体験

低くなつてきました。飛行機に乗っている人の姿も見えないほど。その内に航空母艦から飛んできた戦闘機が加わり、由良港に停泊していた軍艦が沈没したり、兵隊さんが亡くなったり、民家や山にも爆弾が落とされるようになりまし

た。由良市によれば昭和20年7月10日P51戦闘機の攻撃を受け由良港に停泊していた軍艦が攻撃を受け12名が戦死。7月28日にはグラマン戦闘機が港の艦船を攻撃、82名の戦死者と50名の戦傷者が出たと記されています。戦争末期なのに、幼い僕たちは、戦果を疑いませんでした。あとで考えたことですが、B29や航空母艦からの戦闘機の飛来にも日本の戦闘機が1機も迎え撃つことがなかったこと、それほどまでに戦力がなかったのです。

終戦のショックは大変でした。軍国少年に教育された幼い小学生が、それでも真実を知り新制中学校に入り、新しい憲法のもとでの教育に真実を見つめました。

混乱の中での教育はわたしを育ててくれました。

「教え子を再び戦場には送らない」のスローガンは昭和31年教師として岸和田の小学校に勤めたわたくしの教師生活のスローガンにありつづけました。退職して25年。安倍自民党政権は多数の力を利用して戦争への道押し進んでいます。若者を、孫たちを、ひ孫を、そして日本国民を、戦争に巻き込ませないように、力を合わせて頑張りましょう。

今こそ憲法を守るたたかいを、みんなのものにしましょう！

## お楽しみクイズ クロスワードパズル

●応募方法／郵便ハガキにクイズの答え・住所・氏名・年齢・電話番号・友の会に対するご意見等を記入のうえ、あて先／〒590-0824 堺市堺区老松町2丁58-1 友の会事務局「お楽しみクイズ」係あてにご郵送ください。

●しめきり／2017年3月8日(水)消印有効

●当選発表／厳正なる抽選の上、10人のかたに賞品(図書カード5000円分)を、賞品の発送をもって発表に替えてさせていただきます。

●クロスワードパズル解答はがきに書かれた「ご意見」は、紙面に掲載させていただきます。ご了承ください。

### タテのキー

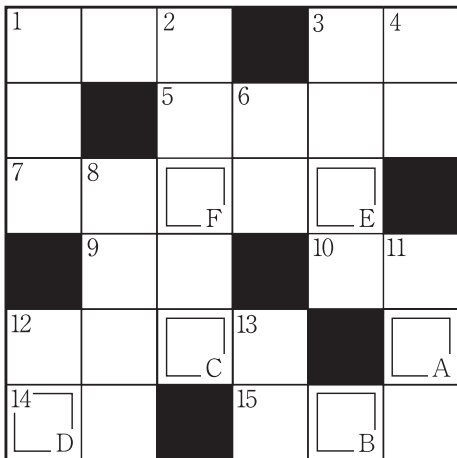
- ① 相愛  
② まじりものない黄金  
③ 後ろへそらすこと  
④ 食事の〇〇に手洗いを  
⑥ 一か八かの〇〇に出る  
⑧ 財産、――者  
⑪ 薄利――  
⑫ ぺろりと〇〇を出す  
⑬ 自分で支出する〇〇出

版

### ヨコのキー

- ① 返還を要求  
③ 瓢箪から〇〇  
⑤ 床下の対。――浸水  
⑦ 鼻へ嗅神経、目へ？  
⑨ 〇〇せぬ出来事  
⑩ 〇〇の絡まるチャペルで  
⑫ またたく間  
⑭ 雨の多いこと。高温〇  
⑮ 礼にそむくこと。失礼

カギを解き、二重ワクに入る文字をABC順に並べてできる言葉は何？



●12月号の答「オオミソカ(大晦日)」  
●応募数/96通

### 俳句

雪だるま孫と一緒に作る夢

山本 直美

### 川柳

トランプの言葉一つで株上下  
孫が云う俺の宝は爺なんだ

安東 利彦  
奥田 君江

### 短歌

春告げる鳥がさえずる山野辺に  
歩幅合わせてクラス会かな

水野 茂子

\*句を詠む時の情景や思いもお寄せください。  
\*俳句・短歌・川柳の次回締め切りは、2017年3月8日(水)です。  
\*特に、俳句・短歌のご応募お待ちしております。

## 会員さん紹介 ②1

和泉支部  
せきぐち 関口 末子さん



昭和10年に台湾の台北市で8人兄妹の末っ子として生まれましたが、2人の兄を亡くしました。小学4年生の時に終戦を迎え、その後家族で日本の広島に帰って来ました。中学3年生で大阪へ引っ越し、卒業後は証券会社に勤めながら夜間高校に通い、卒業後は看護師になるため3年間看護学校に通いました。しばらく勤めたのち日本女子大の通信教育で小学校の養護教諭

に転身しました。和泉市の黒鳥小学校で長く勤めました。

またツボ・指圧の勉強もし、今でもあんまマッサージをされています。

耳原病院とは古くからの付き合いで、和泉支部立ち上げ当初から協力されている会員さんです。70歳の頃から認知症の予防にもなる折り紙を教えています。鶴やクジャク、猫など様々です。80歳を超えた今もデイケアなどでもボランティアをしています。

若い頃からの節制が、生き生きとした今を支えています。

お話を伺いながら、様々な人生経験と豊富な体験談に、思わず引き込まれました。書ききれないほどのお話が、事務局員の心に残りました。

(写真・文 事務局)

## 編集後記

ますます冷え込みが厳しくなり、風がふく時、ない時で一喜一憂しています。

冬眠している熊などは気持ちよく寝ているのかなあなどと考えてしまつ自分の小ささを感じる毎日ですが、友の会の支部活動はどんどん拡がりをみせています。紹介記事は毎月ほんの一部しか紹介できていません。

(奥村)

